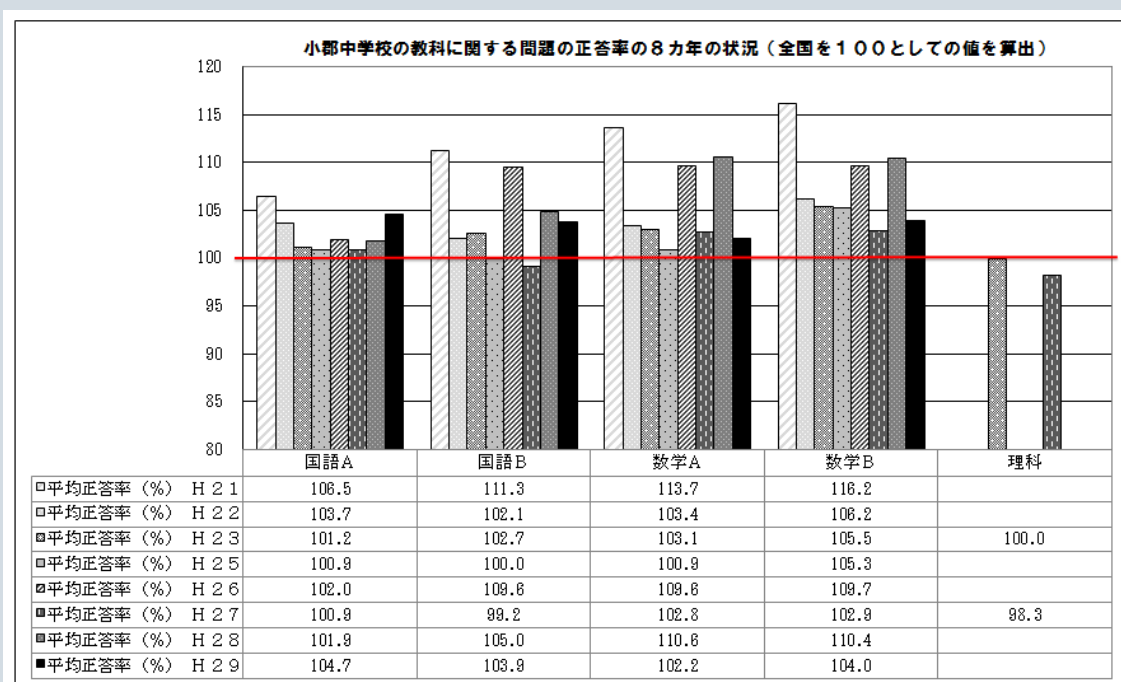




小郡中学校だより10月号

H29. 10. 18

「よりよく生きる」～学習力と人間性の向上を目指して～ —平成29年度全国学力・学習状況調査結果より—

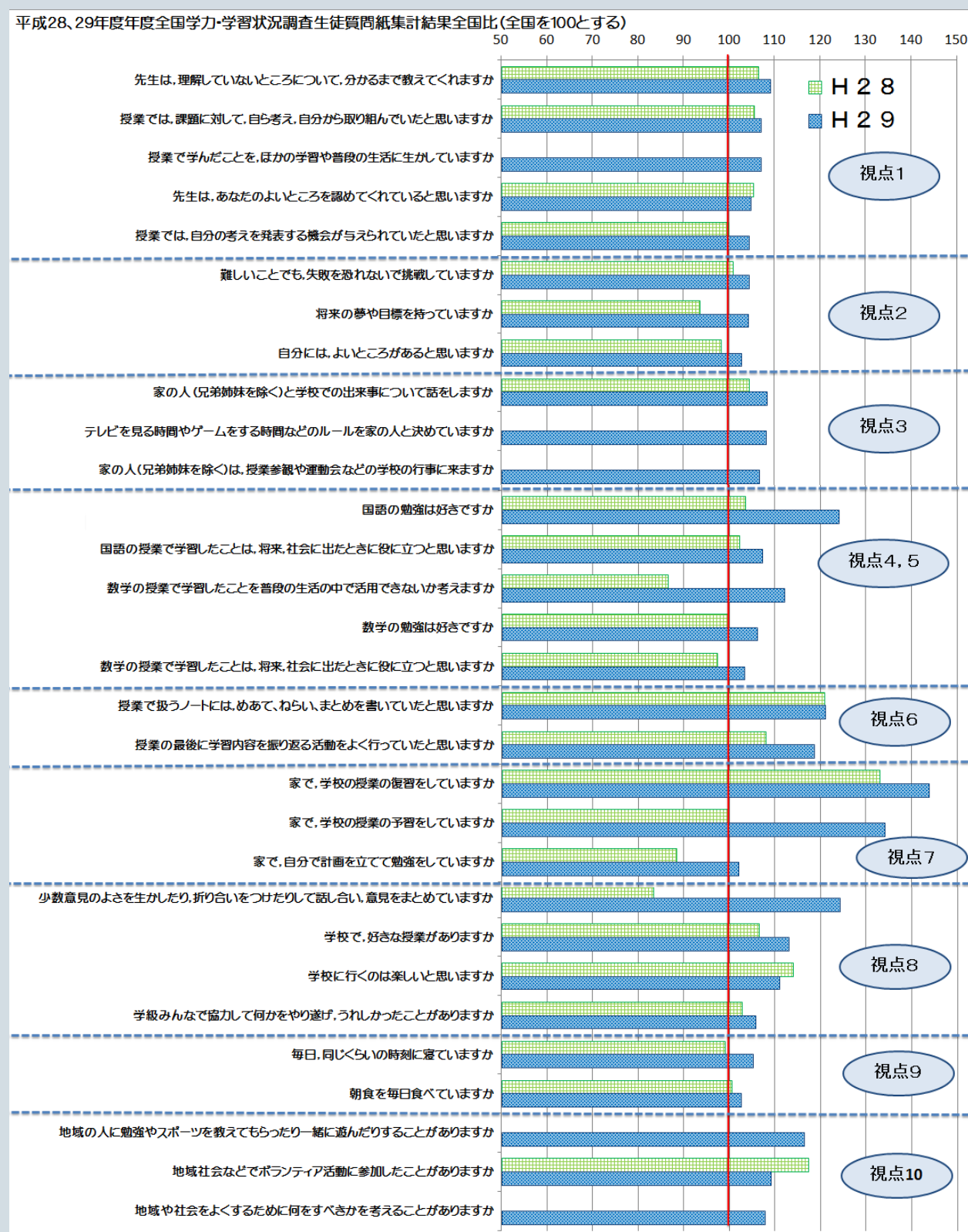


4月に全国一斉に実施されました、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果が、9月に文部科学省より本校に開示されました。上図は、全国（公立）平均正答率を100とし、本校生徒の正答率を比較したもの（過去8年間の推移）です。これまでも本校は毎年全国平均を上回る好結果を残してきましたが、今年も全教科で全国平均を上回る好成績を達成することができました。国語B、数学A、B問題では正答率が昨年度を下回る残念な結果となりましたが、1年から継続して実施、分析しております学期末評価問題や学力状況確認問題での5教科結果の推移から、3年生は確実に成長を遂げていることが確認できています。これも、日頃から保護者の皆様や地域の皆様から並々ならぬご尽力をいただいているおかげであり、教職員一同心よりお礼申し上げます。全国学力・学習状況調査では教科調査とともに質問紙調査も実施されます。右面のグラフは本校独自にデータ処理をして全国を100としたときの昨年度との比較を表したものです。本年度より本校は目指す生徒像に「よりよく生きようとする生徒」を掲げ、キャリア教育の視点に立った教育活動を実践しております。今の学びが将来の学びへとつながってほしい。単なる学力にとどまることなく、一生学び続けようとする学習力と総合的な人間性へとつながってほしいという教職員の願いが少しずつではありますが、具現化していることを大変嬉しく思います。今学んでいることが将来何の役にたつのか（今の学びと生活や社会をつなぐ）を意識した授業を進めているところです。

さらには、昨年度課題の見られた「将来の夢や目標」の設定や「家庭学習」の状況など、非常に良好な状況になりつつあることがあきらかになりました。ただし「地域行事への参加」については課題が残りました。地域への興味、関心は高い状況にあることから、地域ボランティア活動の推進や地域の方々とのふれあいの場の設定など、改善を図ってまいります。

質問紙調査

—生徒が回答した94項目のうち特に顕著な項目の抜粋—



○ 上グラフの視点1～10は、国立教育政策研究所の児童生徒対応表を参考にしています。

1 主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善 2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等 3 家庭教育
4、5 学習に関する関心・意欲・態度(国、数) 6 学習状況 7 家庭学習 8 学校生活 9 基本的生活習慣 10 地域、外国への興味、関心

学力向上プラン — 1学期末分析結果より —

【各教科の分析からあがってきた本校生徒の課題】

- ☆ **文章表現に課題**（条件付きの作文・論理的な作文・教科の用語を使おうとしない。説明することへの抵抗感。音と文字が一致していない（英単語）など）
- ☆ **問題（長文）を読み取ることに課題**（長い文章を読んだ後の質問・「すべて」答えなさいなどの問題の指示・問題解決のための資料を選び出せないなど）
- ☆ **知識の活用に課題**（他分野、他学年で学んだことと関連づけて考察することができない・公式や式変形等をどのように使うかわかっていない）

☆発問の工夫

単語や数値、Yes/Noだけを問わない
発問

☆発表の仕方の指導

「～だから」「～のため」など、質問に応じた表現の定着

☆知識を活用する場面、自分の考えをまとめる場面、授業のまとめを考える場面の設定

☆資料の使い方の指導

☆考察の視点の指導

授業での問題提示、定期テストでの出題

☆「教えて考えさせる授業」

☆ 帯活動による復習

☆ 学ぶことの大切さを実感させる授業

「説明」「理解確認」で全員の生徒に理解させ、「理解深化」で知識を活用して問題解決し、知識・技能の必要性・有用性を実感させる授業展開である「教えて考えさせる授業」は、50分の中に、「この問題は分かった」と実感させる場面と、知的好奇心をくすぐる場面の両方を設定しており、教科の有効な授業展開であると考えられる。

授業の帯活動の場面・振り返りの場面で、基本的な事項の定着を図るだけでなく、会話や授業の内容の文章を書かせる活動等を意識して設定することで文章表現に慣れさせることもできると考える。また、授業の中で実生活に関連した内容や発展的な問題にも取り組んでいくことで、教科の楽しさを伝えていき、将来について関心を高めることができると考える。（態度面での評価）

☆朝読書の継続

活字離れを増やさない（静かな雰囲気づくり）

☆家庭学習ノートの継続と活用法の工夫

☆朝学の継続、読み取りマスターの実施

☆質問教室の継続

学習の機会の確保・補充学習の検討？

【各教科の分析より】

- ・授業やテストで取り上げた実験、問題は正答率が高い。
- ・基本的な問題は正答率が高い。
- ・学年が上がるに従って正答率が上がっている。

【H29全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より】

※全国平均との比較より 全国平均を100とする

- ・予習をしている 134P ・復習をしている 144P
- ・計画を立てて学習している 102P ・新聞を読む 133P
- ・塾（家庭教師）で学習している 100P
- ・先生は分らないところを教えてくれる 109P
- ・先生は良いところを認めてくれる 105P
- ・目当ての指示がある 116P
- ・授業の振りかえり活動がある 119P
- ・授業で発表する場面がある 105P ・話し合う活動がある 109P
- ・400字詰め原稿用紙 2～3枚書くのは難しい 104P
- ・考えを説明したり書いたりするのは難しい 95P

本校では、ホームページ(学校概要)でもご紹介しているとおり、小郡中学校「生きる力」育成プロジェクトにより、一人ひとりの生徒の生きる力を育成するため、「居場所づくりプラン」、「学力向上プラン」、「授業改善プラン」、「体づくりプラン」、「社会とのつながりプラン」の5つのプランを掲げ、PDCAサイクルにより学校運営改善を進めております。

上図は、1学期末の学力向上プランによる全国学力・学習状況調査の検証の一部です。テストの点数の推移だけを見るのではなく、その結果を詳細に分析することにより、今までの授業が良かったのか悪かったのか、客観的に検証し、授業改善に役立てています。

思春期子育て支援 中学生と乳幼児のふれあい体験を実施しました

9月27日(水) 思春期子育て支援 中学生と乳幼児のふれあい体験を本校「洗心館」にて実施しました。この学習は小郡にある 子育て集いの広場「小郡ぽっぽ」との交流で、はじめての取組となります。乳幼児とのふれあいを通じて、命の大切さや幼児に対する温かい思いやりの気持ちを育むことを目的に3年生家庭科の授業として実施するものです。家庭科の学習の中で、事前に乳幼児の特性やそのふれあい方等を学習した後、乳幼児の遊びに繋がるおもちゃづくりも行いました。



当日は、3年生7クラスがクラス毎にわかれ、1時間単位で行いました。ふれあいがスタートして緊張感にややこわばった表情の生徒たちが、乳幼児とのふれあいを通して優しさに満ちた笑顔の表情にあふれていく様子がとても印象的でした。1時間の授業もあっという間に過ぎ去り、感動に満ちた感想も多く見られました。このような機会は、地域の方々とのふれあいや、豊かな人間性の育成、自らの将来を見つめるキャリア教育の視点からも大切な学習であることをあらためて確認しました。



大会結果

☆ 第30回全日本マーチングコンテスト 中国大会
(10月8日 東広島運動公園) 吹奏楽部・・・金賞

☆ 10月7日(土)、8日(日) 山口市新人体育大会

- ・女子バスケットボール部 第1位
- ・ソフトボール部 第1位
- ・野球部 第2位
- ・男子ソフトテニス部団体 第2位 男子ソフトテニス部個人 第2位
- ・女子ソフトテニス部個人 第2位
- ・柔道男子団体第2位 男子個人第1位 女子個人 第1位、第2位
- ・サッカー部 第3位
- ・男子卓球部 第3位
- ・女子卓球部 第3位

☆ 9月30日(土)、10月1日(日) 秋季県体育大会

- ・県体出場・・・サッカー部、男子バレー部、男女卓球部、女子バスケットボール部、女子ソフトテニス部、陸上競技部、柔道部、硬式テニス部
- ・結果・・・男子バレーボール部 第3位、男子卓球部団体 第3位
柔道女子団体 第3位
柔道男子個人1位、女子個人1位(3名)
硬式テニス女子ダブルス 第3位

みんなよく健闘し、素晴らしい結果を残しました！！